

巻頭言

『編集文献学研究』の創刊に際して

明星聖子

このたび、国際編集文献学研究センターの機関誌として、『編集文献学研究』を創刊することになった。2023年度の今号を第1号として、来年度より年1回の刊行をおこなっていく。

当センターは、2022年4月の設立以来、順調に活発な研究活動を展開している。以下、記録のために、設立年度から今年度にかけて、当センターが企画して主催した学術イベントを挙げておく。

2022年6月18日（土）成城大学9号館グローバルラウンジ
ワークショップ「ドイツ編集文献学を学ぶ その1」
シンポジウム「『世界初のビジネス書』の発見と刊行—ルネサンスの商人・人文主義者ベネデット・コトルリをめぐる—」

2022年10月22日（土）成城大学9号館グローバルラウンジ
セミナー「ムージル『特性のない男』の編集をめぐる—」
シンポジウム「ダンテ『神曲』「地獄篇 第五歌」フランチェスカの愛の歌をめぐる—
—新たな校訂版テキストをもとに—」

2023年3月17日（金）成城大学9号館グローバルラウンジ
出版記念イベント「『フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相』座談会・
合評会」

2023年7月15日（土）成城大学9号館グローバルラウンジ
シンポジウム「ヘルダーリン 学術版編集の歴史—翻訳のための編集を考える—」

2023年7月18日～8月1日 紀伊國屋書店新宿本店3階アカデミック・ラウンジ
成城大学紀伊國屋書店アカデミア vol.2「編集文献学入門—プラトン・シェイクスピア・
カフカ—」

7月18日（火）：「西洋古典テキストの伝承と校訂—プラトン『ポリテイア（国家）』」

7月25日（火）：「演劇テキストの作者は誰？—シェイクスピア『ハムレット』」

8月1日（火）：「編集文献学の可能性—カフカの遺稿—」

2023年10月15日（日）成城大学3号館321教室
ハンス・ヴァルター・ガブラー氏講演会「愛の復活、そのゆくえ—今、ガブラー版『ユ

リシーズ』の意義を語る」

第一部：ガブラー版『ユリシーズ』入門ワークショップ

第二部：ハンス・ヴァルター・ガブラー氏講演 “Do you know what you are talking about?”

2023年12月3日（日）成城大学7号館007教室

イベント「生前の遺稿」

第一部：シンポジウム「生前の遺稿—エリアス・カネッティ×カズオ・イシグロ×大江健三郎」

第二部：ドゥルス・グリュンバイン氏講演「アーカイブの掌中で (In der Gewalt der Archive)」

今号のヘルダーリン特集は、上記の2023年7月15日に開催されたシンポジウムの成果である。また、寄稿論文2本は、2022年6月18日のワークショップにおける発表と議論を発展させたものである。今年度はさらに2024年3月12日に、ドイツ、ポーランド、台湾から研究者を招いて、国際シンポジウム「テキストとは何か—編集文献学の国際比較」も予定している。来年度も、シンポジウムや国際会議の開催のほか翻訳書の刊行やさまざまな媒体での成果発表等、活発な研究活動の展開を視野に入れている。

編集文献学という学問分野の導入については、2011年より共同研究として本格的に取り組み始めた。ここ数年その活動が実を結び、当分野に関する社会的認知が高まってきたと感じている。当センターの設立、そして本誌『編集文献学研究』の創刊によって、日本における受容は、ようやく次の段階に進むことができたといえるだろう。今後も、編集文献学だからこそ可能な、学際的、国際的な検討を積み重ねて、日本の人文学研究の一層の発展に寄与していければと願っている。